



米山奨学生学友会

国際ロータリー第2690地区（鳥取・島根・岡山）



ロータリー米山奨学生学友会は RI2690 地区に居住する 米山奨学生 OB 及び現役奨学生の同窓会です。

目 次

- | | | |
|------------------------------------|----------------|----------------|
| 1. 会報第 2 号刊行にあたり | 2690 地区学友会会長 | 梁 榮友 |
| 2. 米山奨学事業への理解を深めるために | 2690 地区ガバナー | 森本 信一 |
| 3. 学友とロータリアンの家族の絆 | 米山記念奨学会理事 | 葛尾 信弘 |
| 4. 米山奨学事業の発展に尽くす | 米山記念奨学会評議員 | 伊藤 文利 |
| 5. 学友会のますますの発展を期待して | 米山記念奨学会委員長 | 治郎丸清志 |
| 6. 奉仕の精神でつながりを築く | 中国学友会初代会長 | 姫 軍 |
| 7. 会報第 2 号発行を祝って | 2660 地区関西学友会会長 | 何 玉翠 |
| 8. 自己実現の一つとしてできる時できることを奉仕しよう | 2690 地区学友会副会長 | 何 曉麗 |
| 9. 米山奨学生の故郷を訪ねる旅の思い出 | 同 副会長 | 河 智弘 |
| 10. 米山奨学生の思い出 | 同 監 事 | 祝 洪波 |
| 11. やればできる。なせばなせる。 | 同 監 事 | 羅 勝元 |
| 12. カウンセラー家族との思い出 | 同 広報委員長 | 李 多暉 |
| 13. カウンセラーとご家族との思い出 | 同 学友 | ヒラタ エレナ |
| 14. ロータリアンありがとう | 同 学友 | カトリ チェトリ プラカシュ |
| 15. ロータリーの精神を引き継ぎ、国際交流に力を尽くす | 同 米山奨学生 | 胡 斌 |
| 16. 私の留学生活 | 同 米山奨学生 | 何 昀暁 |
| 17. 米山奨学生としての経験を忘れずに | 同 米山奨学生 | 張 沄 |
| 18. 異国で生きること | 同 米山奨学生 | 李 侖京 |
| 19. 学友会活動の写真 | | |
| 20. 学友会の役員・監事名簿 | | |
| 21. 2013 年度会計報告 | | |
| 22. 学友会会則 | | |

1. 会報第 2 号の発行にあたり

第 2690 地区米山学友会・会長

ヤン ヨン ウ
梁 栄友 (韓国、1997-98 年度、千葉印西 RC)

国際ロータリー第 2690 地区の米山学友会の会長になって、3 年目に入りました。森本信一ガバナー、治郎丸清志米山記念奨学会委員長、地区の役員の方々にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

学友会会報第 2 号の刊行に際して、中国学友会の姫軍初代会長や第 2660 地区関西学友会の何玉翠会長から寄稿をいただき、心から感謝しております。多くの学友会との交流が出来ることを嬉しく思っています。

今年は、治郎丸清志米山記念奨学会委員長のご提案により、当地区の岡山、鳥取・島根のエリア別に米山奨学生・学友の親睦会が開催されたことは本当に意義あることでした。それは、第 2690 地区の米山奨学生学友会に将来の展開の基盤を与えてくれました。

地区の支援により、岡山エリアは 8 月 25 日に親睦会を開催し、各クラブの米山奨学委員長に加えて、現役奨学生が 9 名とカウンセラー 9 名、学友会から 11 名と元カウンセラー 3 名が参加しました。そして、鳥取・島根エリアは 9 月 8 日に、現役奨学生が 5 名とカウンセラー 5 名、学友会から 9 名と元カウンセラー 1 名、そして各クラブの米山奨学委員長が参加して盛大な親睦会が開催されたことは、大変喜ばしいことでした。

さて、学友会は、学友（元米山奨学生）及び現役奨学生がロータリアンとの交流を深

め、ロータリーの理想とする国際交流と親善、世界平和の創造と維持に貢献することが目的であります。米山学友会は、米山学友と奨学生によって組織され、現在、日本には 31 の学友会（34 ロータリー地区）海外には韓国、台湾と中国とタイ、ネパールの 5 つの学友会、合計 36 学友会があります。第 2690 地区の現在の役員構成は会長 1、副会長 2、幹事 2 名、親睦委員長、社会委員長、広報委員長、総務委員長、監事 3（1 名は地区の米山記念奨学会委員長）となっております。会報第 2 号のために広告委員長の李多暎さんが担当することになりました。役員の皆様、原稿を寄稿してくださった方々に心からお礼を申し上げます。特に会報刊行にあたり、多大なご支援を頂いた森本信一ガバナー、治郎丸清志米山記念奨学会委員長、そして会報編集にご尽力いただいた津山 RC の田中雄三様に、この場をお借りして、お礼を申し上げます。

今後の学友会の発展のために、引き続き、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 米山奨学事業への理解を深めるために

国際ロータリー第 2690 地区ガバナー

森本 信一 (津山 RC)

米山記念奨学会事業は、日本独自の奨学生事業として、1952年に発足以来、地道な活動が続けられ、今日、民間では日本最大の留学生奨学事業に発展し、先般、国際ロータリーの「地域奉仕活動事業」としても登録されました。私達ロータリアンは、この優れた米山奨学事業についての理解を一層深め、協力、支援する必要があります。

このように大きな奨学生事業に発展したのにも拘わらず、一部では、米山奨学会の創設理念やその仕組みが十分理解されていない面があります。

今年度の地区目標の一つとして、前年度と同様に各クラブに米山記念奨学会への寄付目標を掲げておりますが、寄付をお願いする以上「米山記念奨学生制度」を一層理解して頂くために地区内でセミナーを開催致しました。多くの方に出席頂くために、岡山県側と、

鳥取・島根県側で個別に開催し、各クラブの会長、米山委員、現役奨学生、学友、世話クラブ、カウンセラー等多くの方に参加頂き、多彩なプログラムによる研修、体験談、懇親会等により十分な成果があったものと考えております。

また、地区大会での「指導者育成セミナー」でも米山アワーを設定し、米山奨学会事業のアピールを行うと同時に、タイから学友「ホンヨック・ブサコーン」氏をお招きして感動的な体験談を語って頂きました。

ここ数年、世界各地で米山学友会が新たに設立され、米山学友の輪が一層広がりつつあることを実感しております。地区ガバナーとしても、米山奨学会事業と学友会の更なる発展のために、最大限の努力をしていく所存です。

2013-2014 年度の米山奨学生・学友関連行事

- 2013.8.25 岡山エリア「米山奨学委員長研修会」&「米山奨学生・学友親睦会」
- 2013.9. 8 鳥取・島根エリア「米山奨学委員長研修会」&「米山奨学生・学友親睦会」
- 2013.10.5 地区大会「指導者育成セミナー」に米山記念奨学会事務局長岩邊俊久氏およびタイ学友ホンヨック・ブサコーン氏を講師として招聘。
- 2014. 3.1 「米山奨学生歓送会」&「学友会総会」
- 2014.4.27 「米山奨学生オリエンテーション & 歓迎会」

3. 「苦勞は買ってでもしなさい」

米山記念奨学会理事・パストガバナー

葛尾 信弘 (松江東 RC)

今年度は、我が RI2690 地区では森本信一ガバナーのリーダーシップにより、より一層の米山奨学会事業の活性化が行われています。特に、学友会の鳥取・島根支部設立に向けて梁栄友会長らと共に鳥取、島根の学友の皆さんに呼び掛け準備等を進めています。学友会の活動、発展はロータリアンにとっても大変嬉しく、協力、援助を惜しみません。

米山奨学生の皆さんとロータリアンは家族の絆で固く結ばれています。同様に学友の皆さんとも結ばれています。日本 34 地区至る所に沢山の学友会が結成され活動しています。海外でも台湾、韓国、中国、タイ、この 10 月にはネパール学友会が誕生しました。

『「日本への留学道—涙と感謝—」

私は日本に留学し、広島にいたころはアルバイトや専門学校の授業だけではなく、大学受験の勉強も一人でした。家族の家計が困難で、私は仕送りを受けずに、アルバイトをしながら学校で一生懸命勉強しています。最初のころは日本語も日本の文化もあまり分からなくて、アルバイトが見つからず、不安ばかりでしたが、専門学校の先生方や広島ベトナム協会の会員の方々に色々助けていただいて、本当に心強くなりました。専門学校を卒業して、私は島根大学に入学して、専門学校の時と同じように二つのアルバイトもしな

がら、大学に通いました。辛くてよく泣いていました。でも、私はその涙があるからこそ、何千、何万倍も喜びがあります。「留学道」で経験したことはこれからの人生で私と一緒に歩んでいきます。毎日、私は感謝しながら、研究も地域貢献活動も頑張っています。私は一生、日本に留学した貴重な経験を忘れることなく、頑張りたいと思います。』

以上は、ベトナム出身のグエン・ティ・ウエットさん（島根大学 大学院生物資源科学研究科、世話クラブ:松江東 RC）が去る 10 月の米山月間に松江東 RC で行ったスピーチです。許可を戴き原文を紹介致しました。学友の皆さんも彼女同様、苦勞、喜び、涙、感謝を経験された事でしょう。日本には若人に向かって『苦勞は買ってでもしなさい』という諺があります。学友会、奨学生の皆さん！助け合って頑張ってください。ロータリアンも応援していますから。

4. 米山奨学事業の発展に尽くす

米山記念奨学会評議員・パストガバナー

伊藤文利（倉吉 RC）

去る9月8日（日）、松江で開催された米山奨学生・学友親睦会（鳥取・島根エリア）にて、久しぶりに山陰地区で勉強中の奨学生諸君、社会人として活躍中の学友に再会できて本当に楽しい一時を共有し、その思い出は私も含め参加したロータリアンの記憶にいつまでも残る事でありましょう。特にこの6月から新しく制定された「よねやま親善大使」として米山記念奨学会の広報に貢献されている米山学友の楊小平さん（広島大学大学院）による特別講演は出席者に深い感銘を与えました。楊さんにはこれからも折に触れ、米山関連の研修会や母国に帰られてからも本制度の真髄や存在価値を少しでも広めて下さいますよう心から願っています。

ロータリーの「奉仕」は常に「Give and Give」の精神を前面に出して行動しており、決して見返りや対価を求めてはいません。ところが、先日の親睦会で多くの皆さんから本当に自然体で「恩返し」という言葉が出てきたことに強い感銘を受けました。これを聞いた全てのロータリアンは米山記念奨学生制度が本当に良い事をしてきたのだと改めて思い直し、今後もこの制度の発展に尽くそうと決意を新たにしました。

マスコミによれば、反日、嫌日の国々が日本の近くに存在しています。しかし、60年前からその国々より留学生として日本に来て

米山記念奨学生に選ばれ、勉強・研究し、その後、ある者は学友として日本に残り生活しているという歴史が厳然とあるのも真実です。現状のマスコミ報道を眺める時。個人的に危惧するのは皆さんのような真面目な米山奨学生や学友が母国に帰り就職した時、「親日派」等のレッテルを貼られ、差別的待遇を受けるのではないかと言う点が大いに心配がありますが、そのような事が絶対に起きないように、心から祈念しています。

だからこそ、本制度の主目的が世界平和を目指す以上、我々はこれらの矛盾を克服しつつ、本制度の更なる充実・発展を求め、優秀な人材発掘に貢献したいものであります。



5. 米山学友会のますますの発展を期待して

米山記念奨学会委員会委員長

治郎丸 清志 (津山 RC)

この度、第 2690 地区学友会・会報第 2 号が刊行されることを心からお祝い申し上げます。当地区学友会は 2005 年 11 月に創立し、今年 8 年目を迎えますが、学友会役員の皆様のご努力により、地区の学友、奨学生の交流の輪は着実に広がりつつあります。

今年度、森本ガバナーは、米山奨学事業の支援を地区目標の一つとしてとして掲げ、地区のロータリアンの理解を深める努力をされています。地区の主催により、2013 年 8 月に岡山市で、9 月に鳥取・島根地区では初めて松江市で開催された「米山奨学生・学友親睦会」には、両方で学友 23 名、奨学生 14 名が参加し、各クラブの米山奨学委員長、カウンセラーの皆様も合流して、大いに親睦・交流を深めることができました。

地区の支援により、学友会の活動が活性化することは喜ばしいことですが、当地区の学友会が、学友・奨学生の親睦・交流を図るだけでなく、自立した財政基盤を築き、主体的な奉仕活動などを展開するには、学友の皆様が、学友会の活動目標を明確にして、主体的に多くのロータリアンに支援を呼び掛け、意欲的に活動する努力が必要です。当地区学友会が、来る創立 10 周年に向けて、一層ステップアップすることを期待しています。

学友会は、国内 31 地区に設立され、それぞれ活発に活動していますが、海外でも、台

湾、韓国、中国、タイのほか、2013 年 10 月に創立されたネパールを含めて、5 カ国に設立されています。さらにモンゴルでも 2014 年 3 月の創立に向けて準備を進めています。米山記念奨学会の創設以来 62 年間に亘り、日本の先輩ロータリアンが営々と播いてきた米山奨学事業の種が着実に芽を出し、花を咲かせ、樹木の枝が育ちつつあります。我々ロータリアンは、これらを大切に育てると共に、今、播いている種が 5 年後、10 年後に芽を出し、花を咲かせることを願っています。

国内外に 37 学友会が活動しています。

国内に 31 学友会。海外には台湾、韓国、中国、タイ、ネパール及びモンゴル (2014 年 3 月創立) の 6 学友会。

6. 奉仕の精神でつながりを築く

中国学友会初代会長・Eクラブ会員

姫^ジ軍^{ジュン}（中国、1995-97年度、東京臨海RC）

日本に初めて留学した折、世話クラブ（東京臨海RC）には感謝しきれないほどお世話になったことが、まるで昨日のこのように思い出されます。

あっという間に、今年世話クラブの20周年を迎えました。クラブの皆様を通じて人の温かさ、日中友好の大切さ等、数え切れないものを得ることが出来ました。

その後、中国に戻ることで、米山奨学会や世話クラブとのご縁が途絶えてはいけないと思い、2009年の春、中国学友会を立ち上げることができました。また、本当に有り難いことに、中国学友会の創立記念式典には、板橋理事長にもはるばるお越しいただき、皆、心から喜んでおりました。

私は、人と人とのつながりというのがどれだけ素晴らしいか、どれだけ自分の力になるかとの思いを日々深くしています。小さなつながりをきっかけに、どんどんつながりが増えていくなれば、いつかきっとお互いを認め合い、尊重し、思いやることのできる、深く繋がった揺るぎない日中関係を築くことができるだろうと信じています。

そして、西郷隆盛の「敬天愛人」という言葉の通り、ロータリーと出会ったことは、天命です。自分のためだけに生きるのではなく、ロータリアンのように、社会奉仕の精神をもった人間になることを目標にして、今後

の困難な道のりを一步一步進むことができれば、きっと一人一人が奉仕の心を達成するはずだと信じています。

姫軍さんの中国学友会・創立総会（2009年3月）における感動的なスピーチの一部を抜粋して紹介します。

『我々は、なぜここに集まるのか。中国には「滴水之恩、当以湧泉相報（たとえ一滴の水でも受けた恩義は湧き泉として報いるべき）」という諺があるように、我々が受けた恩義を、どのように次の世代に伝えるかが、我々の使命ではないか。』

『・・・また皆さんは日本で日本人のように生活し、勉強し、仕事をしてきました。皆さんが、日本を最も良く知る中国人と言えなければ、皆さんより日本をよく知る中国人はいない。皆さんが中日関係の友好的な発展を最も望んでいる人でなければ、皆さんよりそれを望んでいる人はいない。中日友好関係をどのように発展させていくかは、我々の責任、使命です。』

7. 会報第 2 号刊行をお祝いして

第 2660 地区学友会（関西）2013-2014 年度会長

^ホ^ユ^{ツイ}
何 玉 翠（中国、1987-89 年度、奈良 RC）

この度、第 2690 地区米山奨学生学友会（鳥取・島根・岡山）会報第 2 号発行にあたり、心よりお祝い申し上げます。

日頃からの皆様のご尽力により、米山学友の活動、繋がりができたことに深く感謝致しております。

2013 年 7 月 7 日、米山学友の結びつきを強化するため、大阪で「米山学友大集合」が開催されました。海外米山学友会、台湾、韓国、中国、タイの代表者が来日、そして、日本国内からも各地区学友会代表者が多数出席されました。中でも第 2690 地区梁栄友会長からの早々のご賛同出席メールは、嬉しい喜びでした。梁会長は 2004 年に第 2660 地区関西学友会の会長であり、現在は第 2690 地区学友会でご活躍されていることをお伺いし、深く感銘を受けました。今後も関西学友会第 2660 地区の活動にお力をお貸し頂き、またご参加頂けることを願っています。

2013 年 10 月 19 日にネパールで海外 5 番目の米山学友会が創立されます。米山学友間のネットワークと協力関係が更に緊密になることをおおいに期待しています。

更に、学友会に集う各国の皆様の力を発揮して、ロータリーの理想とする「国際平和の社会の創造と維持」は勿論のこと、母国と日本との懸け橋となって国際社会での奉仕活動に活躍されることを期待しています。

私も来日して 30 年、米山学友会との縁は一生の宝物です。多くの出会い、様々な奉仕活動への参加は、何ものにも代えがたい経験です。ただただ感謝！

今後も米山学友の力を合せて、世界平和に貢献できることを願ってやみません。

最後に 国際ロータリー第 2690 地区米山奨学生学友会の皆様のご健勝と一層のご活躍を祈念致しております。



8. 自己実現の一つとしてできる時にできることを奉仕しよう

第 2690 地区米山学友会・副会長

何 曉麗 (中国、2008-09 年度、岡山北 RC)

アメリカのマズローが提唱している人間の欲求が5段階にあるという欲求段階説を偶然に知りました。簡単に紹介してみると次の通りです。

1. 生理的欲求 (Physiological needs)
2. 安全の欲求 (Safety needs)
3. 所属と愛の欲求 (Social needs / Love and belonging)
4. 承認 (尊重) の欲求 (Esteem)
5. 自己実現の欲求 (Self-actualization)

人間は生理と安全、そして所属と愛の欲求が満たされたら、自分が価値のある存在であることを求めるようになり、自己実現の欲求が湧いてくると思います。私たち米山学友にとって、自分の所属学友会、そしてお世話になっていた RC に自分なりにできることをするのは、自己実現の一つと言ってもよいでしょう。では、何ができるでしょうか。ここで第 2690 地区学友会の主な活動を紹介致します。

- 定期総会の開催
- 学友同士の交流 (親睦会、懇親会)
- 国際ロータリー第 2690 地区主催活動への参加 (地区大会各種行事など)
- 地区 RC とのつながりを保つ (卓話など)
- 会報の作成など

私たち学友は上記活動の企画、参加、お手伝いを通じて、学友会を維持していき、学友同士、RC クラブと交流を深めていきます。現状では、研究や仕事、家庭や地理上などの都合で、上記活動に参加できない学友が多くいらっしゃいますが、お世話になっていた RC への近況報告や会報への寄稿など、自分なりにできることはきっとあると思います。そして、学友役員になると、すべての活動は必ず参加しないといけないというイメージを持つ学友もいらっしゃるようですが、役員の皆さんが協力しながら、活動できる時だけ協力頂ければ大丈夫です。実は現在第 2690 地区の学友役員が不足しており、新役員の補充が必要です。有志者を募集しております。自己実現の一つとして、できる時にできることから学友の活動に参加しましょう。

最後に、最近目にした次の言葉を皆さんと分かち合いたいと思います。

< 日常の五心 >

1. 「はい」という素直な心
2. 「ありがとう」という感謝の心
3. 「すみません」という反省の心
4. 「おかげさま」という謙虚な心
5. 「私がします」という奉仕の心

9. 米山奨学生の故郷を訪ね旅の思い出

第 2690 地区米山学友会・副会長

河智弘^{ハー チ ホン} (韓国、2000-01 年度、岡山丸の内 RC)

私は 2000 年～ 2001 年に米山奨学生として岡山丸の内ロータリークラブでお世話になりました。中でも一番の思い出は、世話クラブのロータリークラブの皆さん 20 名の方が私の故郷、韓国の晋州を訪れたことだ。故野崎さんの企画で当時丸の内ロータリークラブの奨学生である中国人の留学生の故郷と私の故郷を訪問して留学生の家族と大学、地域の方々と直接交流をするというのが目的だった。一行は私の母校、慶尚大学を訪問して韓国の若者の様子を見てもらった。それから晋州南江 RC の例会にも出席し、韓国料理を囲んで RC の日韓交流もできた。二日目は、晋州の名物、チンジュビビンバーとうなぎの蒲焼も食べて、陶磁器も体験した。何より感動したのが、夕食会に私の家族を招待して母にお土産を渡しながら会長が言われた言葉が忘れられない。

“大事な娘を岡山に送ってくださってありがとうございます”

この言葉は今でも私の心に刻まれていて、米山奨学生としてもっと誇りを持って学業に励むことができた。

世話クラブの皆さんにどれだけ支えられていたかは言い尽くせない。私自身も韓国の旅を通してみんなが楽しめるように工夫をして案内できたことを今でも嬉しく思っている。そして、今まで 3 回ほど丸の内 RC の例会に

お邪魔して卓話をする機会があった時、いつもこの思い出をお話したりしている。

私は現在、岡山県を中心に大学で韓国語講師をしている。2690 地区 RC の GSE 研修と通訳を 2 回ほどした。また、岡山県警察本部韓国語研修講師や通訳、岡山県・岡山市・岡山商工会議所・瀬戸内市・岡山県立高校芸術連盟などの通訳などを十数年務めながら自分にできる範囲で日韓の架け橋になろうと日々奮闘している。

あの時の世話クラブの皆さんの支えがあったからこそ今の自分がいると感謝し、これからも人のために、日韓のために頑張っていきたい。



10. 米山奨学生の思い出

第 2690 地区米山学友会・監事

祝 洪波 (中国、1991-92 年度、岡山南 RC)

私は、平成 3 年度の米山奨学生でした。もう 23 年の歳月が経ったのですが、当時応募、採用、1 年間の奨学生生活等々のことを今でも鮮明に覚えています。その時、当 2690 地区に中国人留学生のため、人数枠 2 名が設けられました。確かに面接会場に 30 数名の応募者がいたような記憶があります。皆様のお陰様で、私は 30 数名から選ばれた 2 名中の 1 人となりました。心より感謝しております。

その後、1 年間の米山奨学生生活が始まりました。所属の岡山南クラブの例会で、多くのロータリアンの皆様に出会って、カウンセラーから奨学金が手渡されました。また県内多くのロータリークラブの例会にも招待され、外国人っぽい日本語で米山奨学金受給の感想などの卓話をしたことがあります。それまでの人生の中で一番幸せの時期は米山奨学生の 1 年間だと思います。この米山奨学金に恵まれなければ、今のような仕事や人生を楽しむことができないと言っても過言ではありません。

とりわけ私は、カウンセラーの辻徳彦様には至れり尽くせりというほど大変お世話になりました。辻様は数年前に他界されましたが、私はそのご恩を一生忘れません。今は息子の岡山南 RC の辻誠一様及び辻様の家族の皆様とお付き合いさせていただいております。この友情は私の一生の至宝です。

「水を飲んで、井戸を掘った人を忘れられぬ」という諺の通りに、私は自分を育てくれたロータリークラブの皆様への感謝の気持ちをいつでも持っています。今後とも微力ではありますが、私が愛している加計学園のため、更に中日両国民の草の根の交流のため、少しでも役立つことが出来ますよう精いっぱい頑張りたいと思います。

(加計学園国際交流局 勤務)



11. やればできる。なせばなせる。

第 2690 地区米山学友会・監事

羅 勝元 (韓国、2005-07 年度、岡山南 RC)

学友会の皆さん、お元気ですか。元 RI2690 米山記念奨学生 羅勝元です。

2010 年 3 月 18 日に千葉県銚子市に転勤してから学友会の行事に参加できず、心苦しいです。せっかくの機会ですので、私の近況報告をさせていただきたいと思います。

私が銚子に引越す一週間前、東日本大震災がありました。引越した当時は、震災の影響で町中が殺風景でした。ガソリンスタンドやスーパーなどは、道路網が寸断されたため流通ができず、食料や飲料の確保が大変でした。私が勤めている千葉科学大学も懸命な復旧作業で、今は震災の影響を受けたとは到底思えないほど回復しています。

しかし、人々の心の中にはいまだ震災の影響が残っているように感じます。職場においてなんとない重苦しさや暗くもやっとした空気が漂っているような…。絶望で折れてしまったような人間の一面を見ているような気がします。

私自身も含めてみんなに「やればできる。なせばなせる。」という気持ちを目に見える形で伝えたくになりました。そこで、周りの有志を集い、マラソンに出場すると決めました。もちろん入賞狙いです。運動をやめてから約 10 年、体は重く関節も良くない状態ですので、周りからは「絶対無理!」「体を大事にしろ」「心の中で応援するからがんばっ

て」など消極的な反応がほとんどでした。

結局、有志は集えず、私ひとりの参加 (10km) になってしまいました。こうなったからには「絶対見せてやりたい!」と思い、当日を迎えました。最善を尽くしたものの、30 代 13 位 (141 人中)、10km 部門 43 位 (814 人中) で、入賞までもうすこしという結果になりました。

2014 年には、地元で開かれるトライアスロンに挑戦するつもりです。もっと厳しいチャレンジになりますが、ハードルが高いほど「やればできる。なせばなせる。」という気持ちは強く伝えられると思います。

2013 年も残りわずかですが、学友会の皆さんに置かれましてより希望に満ちた 2014 年を迎えられますように祈願します。Fighting!



12. カウンセラー家族との思い出

第 2690 地区米山学友会・広報委員長

李 多 暲 (韓国、2010-11 年奨学生、世話クラブ：総社吉備路 RC)

私は 2010 年から 2011 年まで米山奨学生でした。私は米山奨学生として選ばれ、総社吉備路ロータリークラブの皆さんと、カウンセラーである永岡幸雄さんに出会うことができました。

私は 2011 年 3 月に奨学期間が終わってもカウンセラーとカウンセラーの家族から楽しいことがあればいつも誘っていただきました。世話クラブの「歩こう会」にも誘われ、カウンセラーと井原市に行って道を歩きながらつくしを採ったりしました。「月見会」では満月を見ながら願い事をして、食事のときにも誘っていただいて普段には食べられない美味しいものをいっぱい食べることができました。それ以外にも、神社のお祭りのときにも誘っていただいたので、日本の文化体験をすることができましたし、学校で遅くまで勉強して家に帰ってくるとカウンセラーの奥さんが作って下さったお寿司やお弁当がドアの取っ手にかけられていました。とても感動して泣いた覚えがあります。また、私は外国で一人暮らしをしているためお正月など、家族が集まって楽しむ時期には特に寂しくなります。そんな私のことを考えたカウンセラーのおかげでお正月にも誘っていただき、カウンセラーのお宅で家族と楽しい時間を過ごしました。カウンセラーが病気で入院していたときにも、病室で日本のお父さん、お母さん、

お姉さんたちとおせち料理を食べて、初詣にも行って新年を向かうことができました。

カウンセラーが亡くなったときに、お葬式で他の人が私を家族の一員だと間違ってくるくらい本当に娘のように仕向けてくださいました。カウンセラーが亡くなってもカウンセラー家族とは今も仲良くしています。一緒にご飯を食べに行ったり、買い物に行ったり、クリスマスには一緒にパーティをします。とても優しくてありがたい日本の家族です。カウンセラー家族がいて私の留学生活はとても心強いです。しばらくするとカウンセラーのお墓ができるらしいので、お墓参りに行って来ようと思っています。

ロータリー米山奨学生になって、とても楽しい留学生活を送ることができました。この場を借りてカウンセラーの永岡幸雄さんとその家族、そして総社吉備路ロータリークラブの皆さんに感謝の気持ちを申し上げます。カウンセラー家族にも、ロータリークラブにも、恩返しできるよう頑張りたいと思います。

13. カウンセラーとそのご家族との思い出

第 2690 地区米山学友

ヒラタ・エレナ（ブラジル、1988-89 年度、松江 RC）

わたしは、1988 年 3 月～1989 年 4 月の米山奨学生（世話クラブ：松江 RC）ですが、その 1 年間、カウンセラーをしていただいたのが葛尾信弘先生でした。思えば、25 年前のことでした。

当時、高校三年生だったお嬢様ともお友達としておつきあい頂き、大山にスキーに行ったり、留学生達との交流など、楽しい思い出がいっぱいできました。今は亡き奥様にも手料理でご自宅に何回もお招き頂き、奥さまがテーブルにつかないと、美味しいお食事が始まらなかったものです。とても仲睦まじいご夫婦で、奥様を大事にされる先生は私の理想像でした。私の父親も松江出身でしたが、母親を大事にしなさい、とよく言われたものです。

その母親を看取らなければならなくなった時、葛尾先生が主治医になってくださり、とても心強かったです。

いつもそばにいてくださったというわけではないのですが、カウンセラーとしての役目が終わっても、ご助言を戴き、人生の節目など、右にいくべきか、左に行くべきか迷った時、右とか左とか示唆して下さったので、少なくとも私にとっては暗い海の灯台の様な存在でした。

今は 91 歳の国際部の担当であった米田盛造様と共に人生の先輩としてお手本とすべきカウンセラーに恵まれたことは本当に幸運なことでした。感謝の気持ちでいっぱいです。



14. ロータリアンありがとう

第 2690 地区米山学友

カトリ チェトリ プラカシュ (ネパール、2011～2013 年度奨学生、岡山南 RC)

2011 年～2013 年岡山南ロータリークラブ
でお世話になりましたカトリチェトリプラカ
シュです。去年の 3 月に岡山理科大学を卒業
し、株式会社アリオンシステムに勤めており
ます。米山奨学生になった期間は私の人生で
大変有意義な期間でした。その頃は毎月例会
に参加することを大変楽しみにしてありまし
た。奨学期間の 2 年間はあっという間でした。
たくさんの方々と一緒にさせて頂き、たくさ
んの知恵を頂きました。カウンセラーもとて
も優しかったです。

2 年間付き合ってくださったロータリーク
ラブの皆様にご心より感謝致します。皆様と出
会えた事は私の幸運だと思っております。皆
様との出会いを意義のあるものに変えたいと
思っておりますので、今後とも皆様との付き

合いを大事にして行きたいと思っております。

現在、職場では、スマートフォンアプリの
開発、大学や病院のシステムの開発など様々
なソフトウェア開発の仕事に携わっておりま
す。これからは 1 人前のシステムエンジニア
を目標にし、グローバルに活躍したいと思っ
ております。

最後に世界のすべての人々の幸せな暮らし
を願います。



15. ロータリーの精神を引き継ぎ、国際交流に力を尽くす

第 2690 地区米山学友

フービン
胡 斌 (中国、2011-12 年度、鳥取中央 RC)

皆さん、お元気ですか？ ご無沙汰しております。2010 年の米山奨学生の胡斌(フービン)です。実は私今年の 4 月から 4 年間で生活をしてきた鳥取を離れ、日本の一番南にある沖縄県に来ました。旅行ではなく、仕事のためです。今は沖縄県庁の知事公室交流推進課で国際交流員として働いています。仕事の内容と申しますと国際交流に係る仕事です。例えば、業務の翻訳と通訳、出前講座、学校訪問、日中政府間交流の手伝いなど。日々の業務の中、国際交流の大切さ、特に沖縄県にとって国際交流の重要性を改めて感じました。

私は沖縄に来て半年しか経っていませんが、沖縄の食文化と風習は昔の影響があつて中国と似ていることが多いので親しみをすごく感じました。皆さんはご存知だと思いますが、沖縄は海のきれいさとリゾート地として世界中に知られています。私も沖縄で観光をしてここの景色に感動させられました。しかし私はあまり不勉強で沖縄で戦争があったことがぜんぜん知らなかったです。この美しい地でアメリカ軍が上陸し、地上戦を起こしてしまいました。この沖縄戦は沖縄の人に大きな被害をもたらし、10 万以上の犠牲者を出してしまいました。ですので、このような悲惨なことを二度と繰り返さないように沖縄の人たちは音楽を通じて平和を唱え、平和を求めろとしています。普段の交流の中でもそ

ういう気持ちを強く感じています。

また、去年の 9 月から日中関係はこじれ、今もその状況が続いているようですが、私もできる限り沖縄人の思いを中国に伝えようとしています。やはり外交と対話を通じて問題解決するのがお互いにとって唯一の道だと私は思います。ですので、私はロータリークラブで学んだことを活かし、日々の業務を通じて世界平和に根差した国際交流に自分の力を発揮しています。

一人だと微力ですが、ロータリアンそしてほかの奨学生たちの力を合わせれば必ず大きな力になると信じています。これからも引き続き宜しくお願いします。

16. 私の留学生活

第 2690 地区米山奨学生

ハ イン ショウ
何 昀 晓 (中国、2013-14 年度、鳥取 RC)

2011年3月末、私は鳥取大学乾燥地研究センターの研究生として日本に来ました。1年の学習を通して、2012年4月に大学院に入り、鳥取大学の農学部の修士一年生になりました。2013年4月に2年生になる同時に米山ロータリー奨学金をいただきました。この2年半の留学生活を通して、様々なことを勉強させて、日本の文化と奮闘精神に対して更に深い理解をさせてもらいました。2年前に初めて日本に来た時のことを思い出して、きれいな町、通り、皆の優しさ、鳥取の静かさと美しさは日本に対するイメージとして、頭の中に深く残りました。今、この美しさ、やさしさは、何代もの日本人の弛まない努力、自覚、執着などにより支えられていることを分かるようになりました。自分の専

攻分野以外に、このように、あきらめずに努力することはさらに習うべきところだと思います。今回の日本留学を通して、先進の技術、知識だけではなく、積極的に前向きな生活態度も大変勉強させてもらいました。これこそが留学の真の意味だと思います。

米山ロータリー奨学金のおかげで、私は日本でより安心な学習と生活環境をいただきました。本当に心から感謝しております。今後、日中の友好交流に貢献できる活動に役に立ちたいと希望しております。



17. 米山奨学生の経験を忘れずに

第 2690 地区米山奨学生

チャン ヒョン

張 泣 (韓国、2013-14 年度、岡山中央 RC)

2013-2014 年度ロータリー米山奨学生の張泣(チャンヒョン)と申します。私は韓国の大学で2010年3月に修士課程を修了し、同年度8月に岡山に来て岡山大学の研究生として10月に入学、2011年4月に博士後期過程で入学し、現在博士3年生になって満3年間岡山で生活しております。過ぎて行った3年間を思い出すと特別な経験はロータリー米山奨学生になったことです。

2013年度にロータリー米山奨学生に選ばれた後、月1回ロータリークラブの例会に参加して色々な日本料理を経験する機会や、多くのロータリアンの皆様と出会う機会もあり、色々な情報を聞くことで日本に対する理解が深まりました。

すると、だんだん上手に日本人と付き合えるようになり、私の態度に関しても大きな影響を受けるようになりました。

ロータリアンの皆様と会う前には、個人と個人が付き合うことがとても大変なことだと思いましたが、ロータリークラブの例会に参加してロータリアンの皆様が心を開いていただいて多くのことを感じました。外国人として非常にありがたいと思っています。

しかし、一つ残念なことはロータリー米山奨学生の期間1年が長いと言えば長い期間なのですが、大切な出会で1年では短いと感じることで。奨学生期間がもう3~4か月しか

残っていないので時間が足りないと思い、人と人との関係は大事なものですので韓国に帰国しても交流が切れないように頑張ろうと思っています。また外国人として日本の大学で教育を受けられたことは一生忘れないと思います。このようにロータリー米山奨学生の期間での様々な経験と日本での3年間の生活は、私の人生中でとても大切な時間だと考えています。残りのロータリー米山奨学生の時間と韓国に帰ってもロータリアンの皆様からもらった愛情や応援を忘れず、感謝の気持ちを持ってこれからもロータリー米山奨学生としての経験を大事に生きていこうと思っています。



18. 異国で生きること

第 2690 地区米山奨学生

李^イ 侖^{ユン} 京^{ギョン} (韓国、2012-13 年度、倉敷水島 RC)

母国語が通用しない異国で生きることは異文化に触れると同時に物事に対する価値観を広げる良い機会でもなる。

自国で当たり前だったことが他国では事柄を別のものに変える場合がしばしば起こり得る。例えば、食事の時、自国の韓国では飯茶碗を持ち上げないのが常識であるが、日本では正反対である。韓国と日本は同じアジア文化圏で距離的にも近く、共通するところも多くあるが、実生活になると異なるしきたりに遭遇する。物事には多様性が潜んで有り、いろんな可能性が有ることを異文化に接しながら勉強した気がする。

自分の思いと違う事柄に対して無視や非難をするのではなく、違う立場や視点から考え直す事でまた新しい世界が広がるのであろう。固定概念に囚われやすい我々はこの世に生まれ最初に接した文化に対して絶対的な信念を持ち、置かれた社会の一人として育てら

れる。しかし、国境というものを越えると環境に対する人間の知恵と想像以上の多様な生き方を観ることが出来る。又、自然に身についた自国の文化に対しても違う視点から観ることが出来て、自分の土壌の真の良さが理解出来るのではないかと思う。

私は異文化交流を通じて人間の知恵と優しさが解かり、人々との出会いに感謝するようになった。言葉が通じなくても、手足や顔の表情を使えば好き嫌い位は伝わるのは面白いが、使う言語が違ってても人間の本性は同じであることを物語る。真のコミュニケーションは互いの意思や感情を単に伝達し合うことだけではなく、互いの差異を認めて理解し合うことであろう。そこには相手の立場から考える視点の転換と配慮という心が必要である。一度限りの人生において他国での素晴らしい出会いは生き方を以前より深く、豊かに変えたターニングポイントになったと思う。



19. 活動写真



2012-2013年度 国際ローター第2690地区 公益財団法人 米山記念奨学会学友総会 奨学生歓送会 2013年3月10日 於 倉敷7化[®]-スクエア





2013学年度 国際ロータリー第2690地区 米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会 平成25年5月12日 於 倉敷国際ホテル







20. 米山学友会 役員・監事名簿

2013年-2014年度
国際ロータリー第2690地区

(1) 会長 (1名)

- 梁 榮 友 (韓国) [1997-1998年度]

(2) 副会長 (2名)

- 河 智 弘 (韓国) [2000-2001年度]
- 何 曉 麗 (中国) [2008-2009年度]

(3) 幹事 (2名)

- 張 英 恩 (韓国) [2007-2009年度]
- マオ・ティアリ (カンボジア) [2010-2012年度]

(4) 委員長 (4名)

- 親睦委員長 ● 陳 思 宇 (中国) [2011-2012年度]
- 社会委員長 ● 李 多 暎 (韓国) [2010-2011年度]
- 広報委員長 ● 李 多 暎 (韓国) [2010-2011年度]
- 総務委員長 ● 張 英 恩 (韓国) [2007-2009年度]

(5) 監事 (3名)

- 祝 洪 波 (中国) [1991-1992年度]
- 羅 勝 元 (韓国) [2005-2007年度]
- 治郎丸清志 (地区米山記念奨学会委員長)

21. 会計

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 御中

報告日：2013年7月19日

2012年度 学友会決算報告書第2690地区 米山学友会

期間：2012年7月1日～2013年6月30日

(単位：円)

【収入の部】

日付	項目	金額	
2012年7月	前年度繰越金	6,370円	
2012年12月	交流会・忘年会会費	0円	
2012年12月	学友会活動補助費	27,000円	
2013年4月	学友会会報補助費	60,375円	米山記念奨学会より補助
2013年4月	学友会会報補助費	60,375円	会報作成不足分地区から補助
	振込手数料	1,255円	会報作成不足分地区から補助
	収入合計	155,375円	…A

【支出の部】

日付	活動内容	金額	摘要	領収書No.
2012年12月3日	交流会・忘年会	21,600円	飲食費	1
2013年1月11日	学友会会報 制作費	110,250円	会報制作費	2
2013年2月25日	学友会会報 HP 掲載費	10,500円	会報 HP 掲載費	3
	振込手数料	1,255円	銀行送金手数料	※なし
	合計	143,605円		

支出合計 143,605円 …B

収支差額 (A-B) 11,770円

以上のとおり報告いたします。

監事(署名) 原 武治 

会長 深澤友 

監事(署名) 何 曉麗 

会計(署名) 何 曉麗 

決算報告担当 : 中原 (TEL : 086-421-2690)

22. 学友会会則

(財) ロータリー米山記念奨学会 学友会 (第2690地区) 会則

第一章 総則

- 第1条 この会は米山奨学生学友会 (第2690地区) という。
第2条 この会は連絡先をガバナー事務所におく。

第二章 目的および活動

- 第3条 この会は会員相互の親睦を深め、ロータリー米山記念奨学会の事業の発展を支援することを目的とする。
第4条 この会は前条の目的を達成するために、次の活動を行う。
1. 総会の開催
2. 親睦会の開催
3. その他本会の趣旨に沿う活動

第三章 会員

- 第5条 この会の会員は次のとおりとする。
正会員
第6条 正会員は元米山奨学生と現役奨学生の有志とする。
第7条 本会の趣旨に反する会員に対して、本役員会の決定を経て、会員資格を取り消すことができる。

第四章 組織

- 第8条 この会は次の役員をおく
1. 役員3名以上10名以下 (うち会長、副会長を含む)
2. 監事2名 (うちロータリアンを1名含む)
第9条 役員および監事は総会において正会員が承認する。
第10条 会長、役員および監事の任期は1年とする。(再選は3期まで)
第11条 会長はこの会を代表し、会務を総括する。
会長は総会、役員会の議長となる。
2. 副会長は2名とし、会長を補佐し、会長が事故のあるときはその職務を代行する。
3. 幹事は2名とし、本会の行政・事務・会計などを総括する。
4. 委員長は4名とし、各担当業務を総括する。
①親睦委員長は、本会の親睦や交流に関する事項を総括する。
②社会委員長は、社会奉仕や活動に関する事項を総括する。
③広報委員長は、学友会の広報・広告・会報に関する事項を総括する。
④総務委員長は、総会および役員会等に関する事項を総括する。

第五章 会議

- 第12条 定時総会は少なくとも毎年1回開催し、臨時総会は役員会が必要と認めた時に開催する。
第13条 役員会の議事は理事現在数の3分の2以上出席し、その出席役員の過半数でこれを決定し、可否同数であるときは採決することができる。

第六章 会計

- 第14条 この会の経費は、ロータリー米山記念奨学会からの補助金およびその他の収入で支弁する。
第15条 収支決算書は監事 (うち1名はロータリアン) の意見をつけて、役員会の承認を受け、総会に提出し承認を受ける。

第七章 補足

- 第16条 この会則の施行についての細則ならびに補充削除は、役員会および総会の決議を持って定める。
第17条 本会の事業年度は、7月1日より翌年6月末日までとする。

附則

- この会則は、2005年11月13日から施行する。
この会則は、2012年2月18日に改定し施行する。

